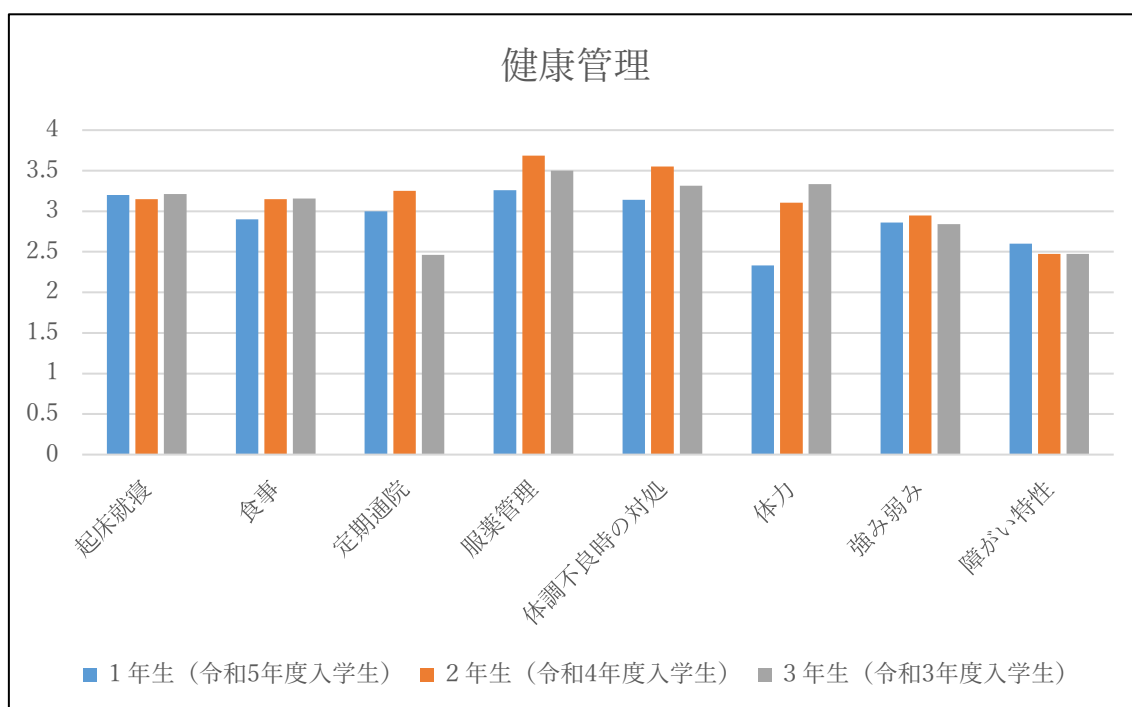


(1) 令和5年度の1年生から3年生までの得点の比較

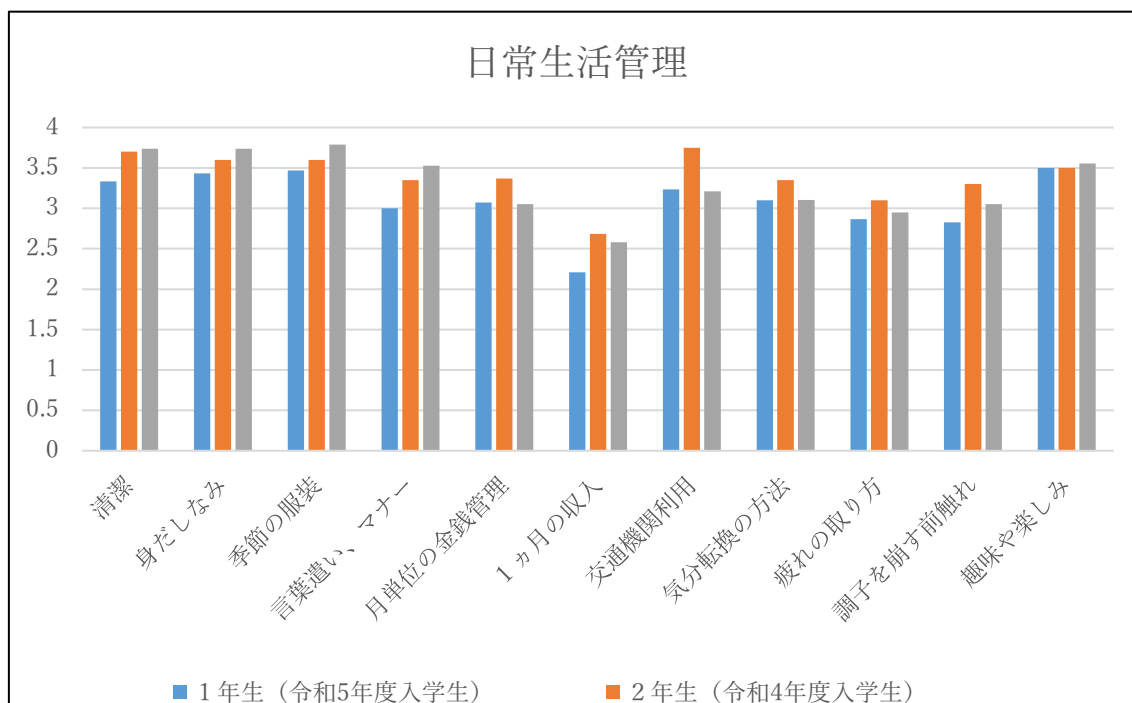
【健康管理】



3学年通じて平均点が3点以上の項目:「起床就寝」、「服薬管理」、「体調不良時の対処」

3学年通じて平均点が1～2点台の項目:「自分の強み弱み」、「障がい特性」

【日常生活管理】

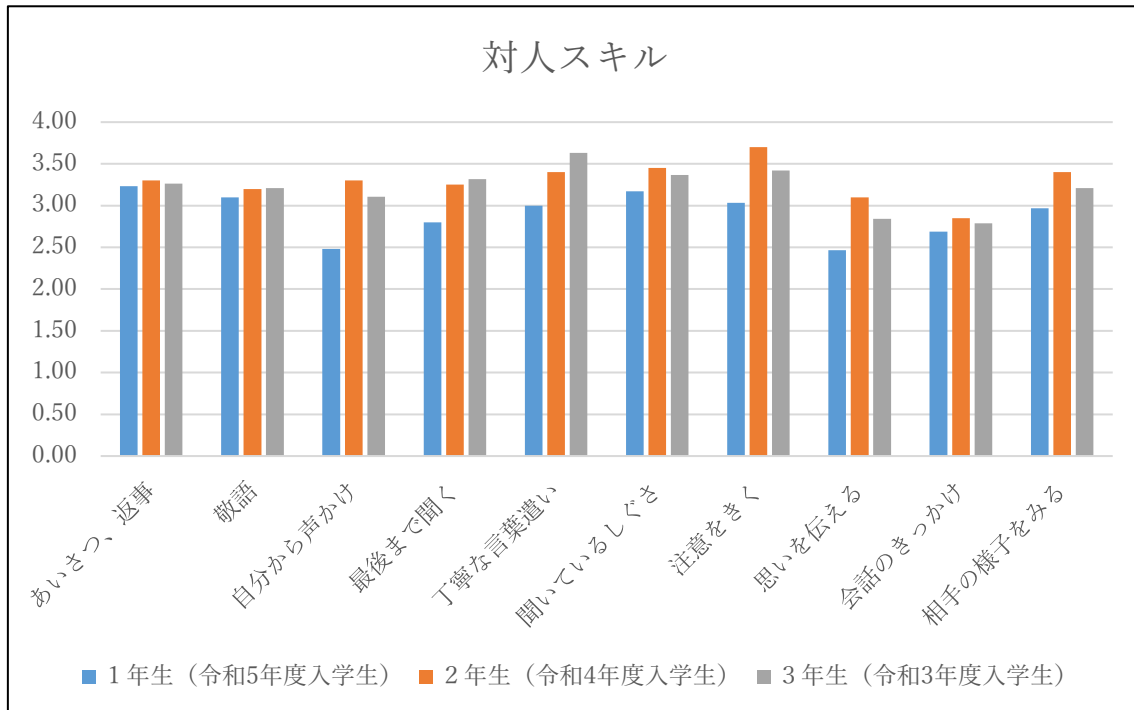


3学年通じて平均点が3点以上の項目

「清潔」、「身だしなみ」、「季節の服装」、「言葉遣い、マナー」、「月単位の金銭管理」、
「交通機関の利用」、「気分転換の方法」、「趣味や楽しみ」

3学年通じて平均点が1～2点台の項目:「1ヵ月の収入」

【対人スキル】

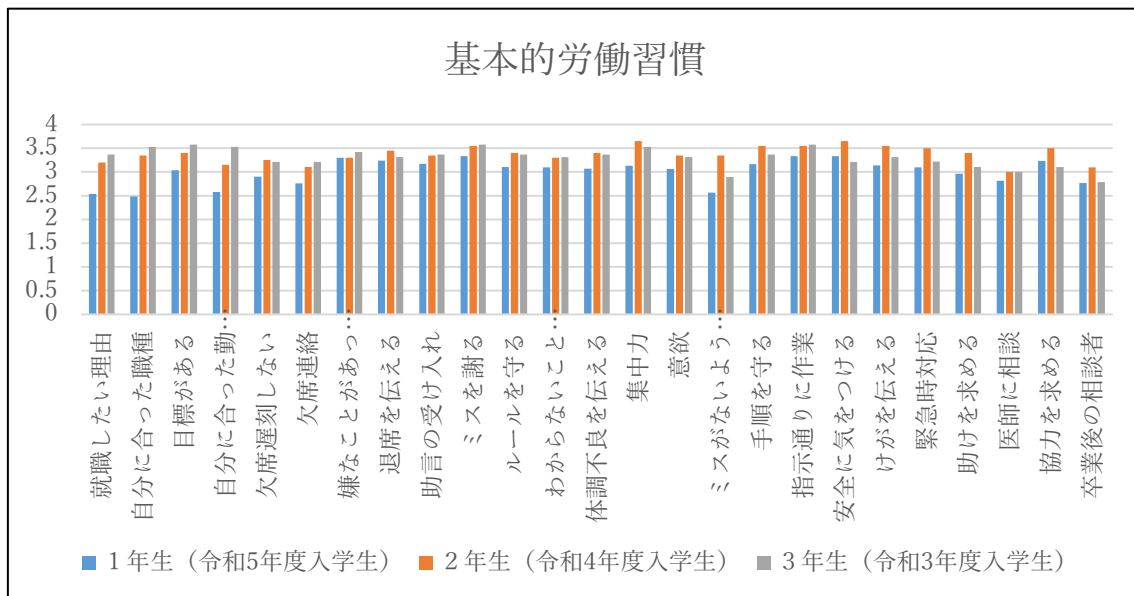


3学年通じて平均点が3点以上の項目

「あいさつ、返事」、「敬語」、「丁寧な言葉遣い」、「聞いているしぐさ」、「注意を聞く」

3学年通じて平均点が1～2点台の項目：「会話のきっかけ」

【基本的労働習慣】

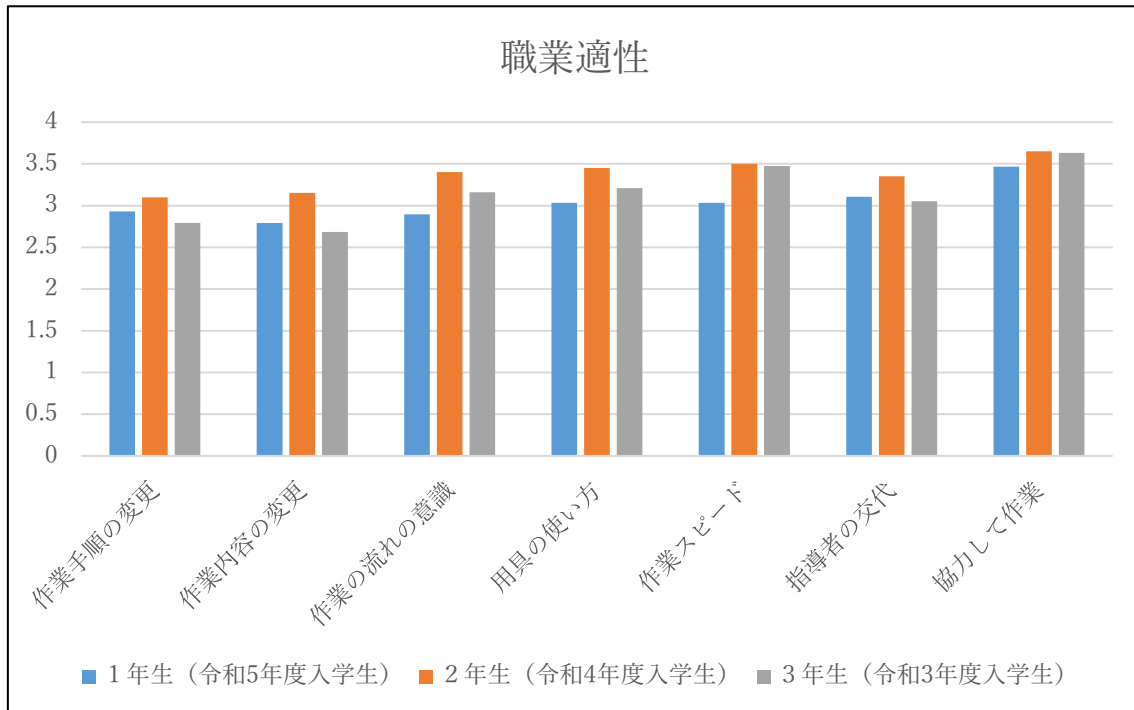


3学年通じて平均点が3点以上の項目

「目標がある」、「嫌なことがあっても登校」、「退席を伝える」、「助言の受け入れ」、「ミスを謝る」、「ルールを守る」、「わからないことをきく」、「体調不良を伝える」、「集中力」、「意欲」、「手順を守る」、「指示通りに作業」、「安全に気をつける」、「けがを伝える」、「緊急時対応」、「協力を求める」

3学年通じて平均点が1～2点台の項目：無し

【職業適性】



3学年通じて平均点が3点以上の項目

「用具の使い方」、「作業スピード」、「指導者の交代」、「協力して作業」

3学年通じて平均点が1～2点台の項目：無し

【考察】

これまでの過去の得点結果では、学年が進むにしたがって、高い得点となっていくが、いくつかの項目で1年生（令和5年度入学生）、2年生（令和4年度入学生）が、3年生（令和3年度入学生）よりも高い得点になっている。これは、5領域のいずれの項目でも同様の傾向が見られている。こうした得点結果の傾向は、これまでの過去の検証のまとめでも見られるが、こうした学年集団が、自分を過大評価したり、客観的な自己評価が難しかったりする生徒が多くいるのではないかという考察をしている。今年度に関しても、実際の生徒の様子を見た時、この得点の高さが実態を表しているとは考えにくく、同様のことが言える。令和4年度入学、5年度入学と続いている傾向であるが、本校の教育を通して、どのような変化をしていくのかを見守りたい。

5つの領域を見ると、「基本的労働習慣」、「職業適性」の項目において、他の領域と比較し、学年進行での得点の高まりが見られることがわかる。これは、専門教科や現場実習等、職業教育に関わる教育活動を積み上げた成果ではないかと考える。反対に、3学年が共通して平均が1～2点台となった項目は、【健康管理】「自分の強み弱み」、「障がい特性」、【日常生活管理】「1か月の収入」、【対人スキル】「会話のきっかけ」である。

「1か月の収入」については、アルバイト等により、実際に給料を稼いだことのある生徒が少ないことが要因ではないか。また、「自分の強み弱み」、「障がい特性」、「会話のきっかけ」といった項目は、昨年度に引き続き得点が低くなっており、本校の生徒たちが苦手とする「自己理解」や「コミュニケーション」の分野であり、日々の教育活動を見直していきたい。